


# グループホーム 添寿の里

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	理念として、地域に根付いた暮らし作り、ゆとりをもち気楽生活出来る場所で利用者一つの家族として、あんきにのんきな暮らしをテーマに努めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	理念を大きく見やすい玄関先に掲げ、毎朝朝礼時などで理念を共有しその人にあった生活その人らしさを大切に、日々スタッフと共に実践に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	一目で目につきやすい玄関先に大きく掲げている為観るだけでもすぐにわかるようにしており、家族や来訪者にも、説明を行い理解してもらっている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	近隣には、施設が多く近所付き合いは少ないも、地域の利用者の友達等や知り合いなど、よく立ち寄ってもらっている。又自然に立ち寄るような環境作りに努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域での行事は町報を頂いているので、老人会や清掃活動、お祭りや地域の保育園の慰問の受け入れ等で交流ができています。		老人会、地域開催の女性の集い、神幸際、岩石城まつり、清掃活動等の参加に取り組んでいるが、今後も地域との交流できる場には、どんどん参加していきたいと思う。

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者の友人で一人暮らしの高齢者の所へ訪問したり、来訪したいと申し出があった際、送迎など出来る事は支援しているが、他に出来る事はないか話し合い取り組んでいる。</p>		<p>地域の高齢者に接触する機会が少ないため、今後は積極的に地域との交流の中で高齢者に出来る事への支援を取り組んで行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を通じて職員も含め話し合いを行い前回の改善項目などを明確にし検討したうえで評価の改善に取り組んでいる。</p>		<p>外部評価にはスタッフ全員で関わりを持ち、自己評価の話し合いにも意義を共有し今後も質の高いグループホーム作りに行きたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で毎月の行事報告や外部評価の報告等を行いその月の議題についての話し合い、又、次回の議題等を話し合いを蜜に話し合い今後のサービスに生かしている。</p>		<p>二ヶ月に一回、議題により話し合い、サービス状況の報告、地域とのつながりで議題により消防団の方などをお願いし、参加していただくなど意見交換しながら、よりよいサービスの向上に努めている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の職員は町報の配布や、イベントの参加の書類等でよく訪問して下さり、情報の提供も定期的に行っている。</p>		<p>当ホームの課題解決に向け町に出向く事も多々あり、町の職員ともコミュニケーションもとれ、サービス向上に向け連携し、今後も取り組んで行きたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護を活用している利用者はおられないが、研修の参加や施設内部研修会を行っている。又、家族利用者の方に制度の必要性や窓口等の説明を行っている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃より虐待防止に努め利用者のどんな小さな身体の変化も見逃さず、変化のあった場合は職員全員で原因を究明し話し合いをししている。</p>		

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約前後からしっかり説明を行い、その場で解らない事や疑問に思うところを尋ねており、電話等で何時でも気軽にご相談して下さるよう声掛けを行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員全員に日頃から利用者の意見や思っていることを聞かせて頂き日々の申し送りや会議などで話し合いをしている。又、ご意見箱の設置もしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に必ず報告をし、遠方のご家族や急を要する事は電話で対応している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や面会時に意見を聞くようにし意見箱の設置をしている。意見等があった場合、申し送りや会議等で報告し運営に反映させるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者抜きの話合いをし、自由に意見を出せる機会を設け、その後管理者を含め、全員で話し合うようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月の行事等も考慮したうえで職員配置をし、必要時や業務上の都合や、やむを得ない場合、利用者の不自由のないよう勤務交代や超勤等で対応し職員にも理解を得ている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動ある場合は段階的に行い利用者にとっての変化を最小限に抑え変化によるダメージの重大性を理解し配慮を怠らないようにしている。又、退職者が極力でないよう、管理者、職員とのコミュニケーションに努めている。</p>		

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>最初から採用対象外とすることはなく、本人のやる気とお年寄りが好きであると言う事。働く職員はそれぞれの能力を発揮しやりがいを持って勤務できるよう配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>会議、申し送り等で、利用者の人権を尊重する事を常に話し合っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>常に職員一人一人、人間としての質の向上を考え、職員育成を念頭においている。又、今年は一人実践者研修に参加、個々に於いては、日々の勉強、資格取得に働きかけている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者の必要性を認識し施設訪問、見学、電話等の情報交換や相談、職員親睦会などをし交流を図り質の向上を目指している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員一人一人の健康状態を見極め、個別に悩みを聞いたり、食事会など行い、意見交換しながらストレスの軽減を図っている。</p>		

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力、実績、勤務状況を、運営者に報告し個人のもつ能力を認め最大限に生かせるよう声かけ、励ましを行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期には、特に信頼関係作りに気を配り、不安のないように配慮し利用者の訴えをよく傾聴し、受容に努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用にあたり、家族に対し困っていること、不安なこと、どんな生活を望んでいるか？など、何でも相談を受けたり、直接言えない事などは、手紙や電話などで受けれるよう努力している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、よく説明をしたのち、他の資源の説明を行い、本人、家族にとって一番よい方法についての話し合いを行い対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が生活する上で、馴染みの重要性を理解して頂き、家族等より馴染みに対しての情報を集め、体験入居などして頂き、職員や他の入居者とのコミュニケーションを図りながら徐々に馴染んで頂ける様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者ではなく、家族として考え、色々な会話や経験の中から教えられ、励まし合い、一緒に泣いたり笑ったりしながら、日々を楽しみながら送っている。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と積極的に情報交換し共感し励まし合いながら本人を支えていくよう努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族がより良い関係が築いていけるよう双方の調整を図り、ここで良かったと思って頂けるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行ったり懐かしい人の面会や、時には訪問し関係が途切れないよう支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	談話室の充実を図り、交流しやすい空間と楽しく家庭的な雰囲気作りし、一つの家族として支えあえるよう努力している。		利用者により個人差があるため苦慮している。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や契約終了者には、こちらから訪問したり、出来ることの支援を行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞いたり、ご家族より聞いている。又、困難である利用者は日常生活で察したり受け止める努力をしている。		

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、周りの情報を集め把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	昼夜通して、全職員が個々の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや好きな事、出来る事など、家族の意見も反映しその人らしい生活が送れるよう職員との話し合いで介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは期間に応じ必ず行っているが、途中で変化が生じた場合は関係者と協議しながら計画の見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別のケース記録、ケアプラン実施表に記入し、日々、気づきや工夫等は申し送りノートで、情報の共有が出来る様にしている。又、全職員が共有出来る様に、印かサインで確認をとっている。		利用者の日々の様子やきづきなど、毎月ケアの見直しを職員ミーティングを行い、その内容をリーダー会議で話し合い、検討し実践に生かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	決められた生活を送るのではなく、本人や家族の要望に応じたケアを提供出来る様に努めている。		本人、家族の要望の中で(買い物、病院受診、外泊、外出の支援)など、又、ターミナルケアも医療関係のもとで実施できている。

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の開催行事の参加や資源等を活用している。又、地域の保育園の慰問や中学生の体験学習の受け入れ等も行っている。		地域資源をもっと活用し、開けた施設づくりをする事でよりよい生活を支援していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーや支援相談とは、必要に応じて連絡を受けて、密接な話し合いにより支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと定期的に交流をもちながら、予防介護や権利擁護の事についての、話し合いなどの場を持ちながら協働している。		運営推進委員会に参加して頂いたり、時々来訪して頂いたり、交流も図っている。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により、出来るだけ希望に添えるような医療を受けられるよう体制をつくっている。病状の変化や受診結果も本人、家族に十分な説明を行い、同意を得て適切な医療を受けられるよう支援している。		一部の利用者をのぞき、地域の医師の往診で対応している。病状の変化ある時は本人、家族へ説明し同意を得て、病院の変更を行い医療との協働を行っている。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診で専門の病院と、連携を図り医師に相談や診断治療を受けている。		専門の病院が協力病院である為、相談や診断の支援がスムーズに行えるようコミュニケーションを図っている。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	緊急時の担当看護師や係りつけの病院の医師や看護師にささいな事でも気軽に相談しながら、日々、健康管理、医療の活用に努めている。		職員に1名看護職員を配置し、健康管理にも気を配っている。



## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した場合は病院の関係者(ソーシャルワーカー)と情報交換を常に行い、本人、家族が安心して早期退院が出来る様支援している。又、そういう場合に備えて協力病院と連携をとっている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人、家族と十分話し合い、今後の方針を決める上で三者(家族、医師、管理者)で話し合いを持ち、その結果で出た方針を全職員で方針を共有している。</p>		<p>これまで入居者及び家族の希望により、2件ターミナルケアを行った。その際、主治医、家族の協力を得、職員間で方針、情報を共有しながら、最後まで良いケアができたと思う。全職員一丸となって達成できた事を、皆が誇りに思っている。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期に向けた暮らしに関して「出来ること、出来ないこと」を職員全員で十分理解し、チーム一丸となり支援している。今後も家族、職員の意見を反映しながら次回に備え準備を行っている。</p>		<p>当ホームは2件のターミナルケア(看取り)の実績があり、今後も本人、家族の要望に可能なかぎり応じ、医師よの連携を図りながら週末期に向け穏やかに過ごせる支援に努めたい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えが必要になった際、それに関わる本人、家族、その他の関係者と情報交換や話し合いを進め、安心して住み替えられるよう支援し、本人のダメージを最小限にとどめる様に努めている。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉使いには十分注意し、自尊心、羞恥心をきづつけないよう尊厳ある生活を念頭に置いている。又、個人情報保護に努めプライバシーには十分注意し、守秘義務を職員全員で周知徹底している。</p>		

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が一方的に決めるのではなく、本人の思いを自然にだせる形で援助を行い、納得して頂けるようにし、意見も傾聴するように努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの理念でもある(その人らしさ)や気づきを大切に援助を行い、日々その人のペースに合わせた生活を支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の要望に合わせ、(理、美容室)に定期的に通っている。又、女性でお化粧される方は毎日されており、出来ない方についても、職員が手伝うなど整容には常に気配るように努めている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の献立を自由献立とし、入居者の意見を取り入れたメニューで入居者と共に買い物、準備、かたづけ等を一緒にを行い食事を楽しんでいる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつは手作りの物や、市販の物を好みで提供出来る様にしている。又、タバコは、本人の嗜好に添えるようにしているが、本人が望まない限りは、忘れて頂くようにしている。		買い物を希望する入居者と一緒に出かけ、本人の望む物を購入出来る様支援している。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人一人の排泄パターンを把握し観察を細かく行い、出来る限り気持ちの良い排泄が出来るように努めている。排泄がないときなど(飲み物、適度な運動、腹部マッサージ等)で対応している。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に添えるよう、毎日入浴出来るようにしている。また、体調に合わせ、一人一人ゆっくり入浴してもらい、必要に応じて、見守りや介助浴をし、気持ちよく入浴を楽しんで頂いている		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の動きや体調を観察し、その日の状態に合わせて、安心して休息出来るように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の楽しみ事、出来る事などに注目し、カラオケや詩吟、ぬり絵など思い思いの生活を楽しんで頂いている。又、家事の手伝い、花の手入れ、畑の草取りなど個人に合わせた取り組みを行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度自己管理出来る利用者に関してはお金の所持や使えるよう支援している。		お金の自己管理の難しい利用者には考えなければならない課題であると思う。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添ってその日の体調や状態に合わせて散歩、花壇、畑の手入れ等戸外に出かけるよう支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない所へ出かけるような行事計画を考えたり、ご家族の協力を得て温泉に行ったり、馴染みの友人宅の訪問等の支援をしている。		行事で園外ドライブ等を多く取り入れ外食などしており、その際、ご家族参加を促すも参加ない為今後も積極的に参加していただけるよう声掛けを行って行きたい。

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の、希望により何時でも電話を使用出来るようにしてる。手紙については近くのポストへ投かんする為に同行したり、やり取り出来るよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも気軽に訪問出来るよう開放的にしており、来られた際にはお茶やコーヒーなどをお出しし、居心地よく過ごせるよう配慮している。		再度訪問して頂けるよう、帰る際は利用者と共に玄関先まで見送りをし「次の訪問をお待ちしています」と声掛けを行っている。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員に身体拘束に該当する(3ロック)を使っていないか申し送りや会議等で話し合い注意をし合いながら取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は鍵をかけないようにしている。離園行為を防ぐために、玄関等にチャイムを設置し入居者の安全確認や所在確認をするよう職員に周知徹底を行っている。夜間は防犯の為施錠を行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の行動パターンに合わせ、十分にプライバシーに配慮しながら所在の確認や安全確保に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の状態に合わせ保管、管理を行い、特に共同の場においては危険物などの保管、管理は十分配慮している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の命を預かっている事を念頭におき、日々事故対策に取り組んでいる。又、事故等があった場合報告書を提出し、その度、職員を集め緊急会議を開き再発防止に取り組んでいる。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ターミナルケア急変時や転倒事故、あらゆることを想定し対応に当たってきた。又、消防の講習や他の施設の勉強会に参加しながら、定期的に訓練を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は必ず実施し、緊急時の対応について訓練している。又、近隣施設等の協力体制も築いている。		運営推進委員会議の中で、災害対策について消防署員にも参加していただき、検討している。今後も地域住民も含め協力体制作りを確立していきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時にリスクに対する説明を行っている。又、面会にこられた時に話し合いを通じ、抑圧感のない暮らしの提供に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも体調の変化等があった場合は、バイタル測定や主治医に連絡し、職員間で情報が共有できるよう朝礼、終礼時に申し送りを行うと共に、公休の職員に対しても情報が伝わるよう記録を残している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の目的や副作用等を理解できるよう、書籍等で確認している。又、昼夜の症状の変化を記録し、職員一同確認しあっている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因を話し合うと共に、毎日ラジオ体操や園内歩行にて運動を促し、飲食物も牛乳や繊維があるものに対応し、スムーズな排便ができる様に努めている。又、腹部マッサージ等も取り入れている。		

## グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者全員に毎食後歯磨きを促し、口腔ケアに力を入れ、自分でできない方については一部介助にて口腔内の清潔に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の状態、習慣に応じた支援を行うと共に、必要時には食事回数を増やしたり、代替品で対応している。又、食事、水分量の摂取量を記録に残しながら、状態を把握できるよう努めている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、職員に周知徹底を図っている。又、感染予防にも力を入れ、手指洗浄はもちろんの事、外部からの面会者や家族にも体調の悪い方にはマスクの着用を促すようにしている。		感染症予防には特に力を入れており、毎日手洗い、うがいの施行を行っている。(インフルエンザ、ノロウイルス等の対策を強化している。)
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日調理する前、食材はすべて電解水を通し、食中毒予防を行っている。又、食器や調理器具は、洗浄後食器乾燥機にて熱消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花や植木等で、明るく季節感のある雰囲気を作り、出入りしやすい様工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、季節に応じた飾りつけや、ソファの設置等、居心地の良い空間作りを行っている。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファやテーブル、新聞や雑誌を置くことで、本人の時間を思い思いにゆったり過ごせるよう配慮している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族に協力していただき、馴染みのタンスや置物等を持ち込むことにより、本人が安心して過ごすことができるよう配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設内の臭いには十分気をつけ、毎日2～3回の空気の入れ替えや、消臭剤の設置等に対応している。温度調節は入居者主体で考え、こまめに調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には段差を作らず、通路等には手摺を設置している。又、移動するところには物を置かない等の工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の居室に表札を掛け、自室が分かりやすいよう工夫したり、一人一人の理解力を把握し、その人の能力に応じて自立した生活が送れるよう努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の両サイドにベランダを設置したり、玄関外に椅子の設置や、施設周りに花を植えることで、外でお茶を飲んだり、周りを楽しく散歩できるよう配慮している。		

グループホーム 添寿の里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



## グループホーム 添寿の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)